

「光を追いかけて」

016 桜丘中学高等学校

山奥の駅を出発し、何も変わらないトンネルの車窓を眺めていた。

トンネルという黒い世界から僕の視界は突然、白銀の世界に吸い込まれた。

そこには一人の少女が立っているのが見えたがすぐに元の景色に戻ってしまった。

ほんの数秒間、車内からみた輝きは僕の頭から離れなかった。

あの光景の余韻に浸っているとすぐに駅に着いた。そこからの道のりはよく覚えていないがひたすらあの輝きへと引き寄せられた。

しばらくしてあたりを見渡すと電車で見えた時よりも迫力があつたが、電車から見た彼女は見当たらず、僕の目の前には晩冬の氷柱が広がっていた。

あの光を追いかけてながら、白く包まれた木片の道をまっすぐ進むと開けた場所ですぐ甘酒をもらえた。この一杯は僕の雪を解かしてくれた。

甘酒を飲み終わる僕が駅へと帰るとき電車からこちらを眺めている人が見えた。

また一人、この場所へと引き寄せられていく。